

宗教倫理学会 公開シンポジウム

3.11以降の社会と宗教

日時：2012年3月17日（土）、午後1～3時30分

場所：龍谷大学 大宮キャンパス 清和館3階ホール

講師：福島和人（真宗大谷派東本願寺教学研究所 嘱託研究員）

金沢市の真宗大谷派・本教寺に生まれる。金沢大学法文学部史学科、大谷大学大学院（仏教文化専攻）で学び、京都大谷高等学校 教諭、大谷大学・大谷専修学院 講師を経て、現在、真宗大谷派東本願寺教学研究所 嘱託研究員。『近代日本の親鸞』『親鸞の思想——戦時下の諸相』など、著書多数。

栗林輝夫（関西学院大学 教授）

国際基督教大学、東京神学大学を経て、米国、欧州に学ぶ。Ph.D.（ニューヨーク・ユニオン神学校）。留学中にスリーマイル島原発事故に遭遇、日本の反核使節団通訳として国連、アメリカ東部各地を訪問。ドイツでは、プロクドルフ原発前祈祷集会などの反核運動に参加。『原子爆弾とキリスト教』など、著書多数。

[プログラム]

趣旨説明：小原克博（同志社大学 教授）

講演1：福島和人（40分）

「えしやうふに きやうぼう依正不二の教法」

講演2：栗林輝夫（40分）

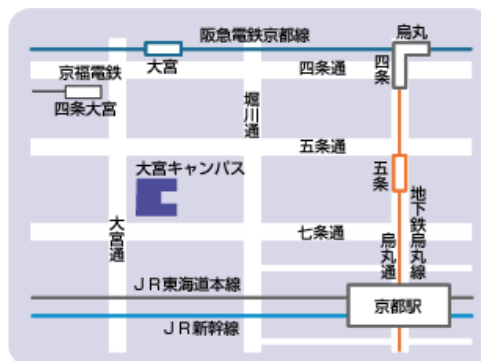
「原発をキリスト教はどう見るか」

（休憩）

パネルディスカッション

福島和人、栗林輝夫、小原克博

フロアーとの質疑応答



[趣旨]

本学会は本年の研究テーマ「3.11以降の社会と宗教」のもと、(1) 宗教者による復興支援・宗教の社会貢献という側面と、(2) 原子力エネルギーに対する宗教倫理的考察という側面を検討していく予定であるが、今回の公開講演会では、こうした課題を市民の方々と共有したい。

入場無料・事前申込不要

主催：宗教倫理学会（連絡先：075-343-3422、高田信良研究室）